

ストロビレーションの
誘導に失敗

いつまでたっても
エフィラがでてこない

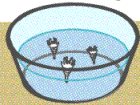


ポリプがっ!
ポリプがぁぁ!!

ポリプの増殖が
止まって消滅



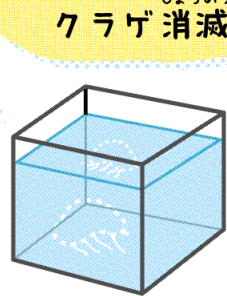
し〜ん...



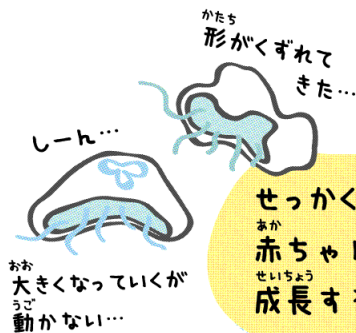
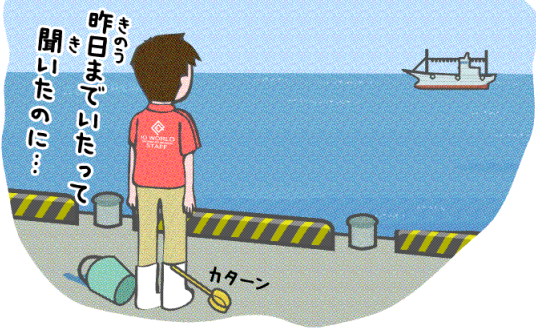
まだかな
まだかな〜♪

急激な水質変化で
クラゲ消滅

クラゲ飼育スタッフ
苦勞あるある



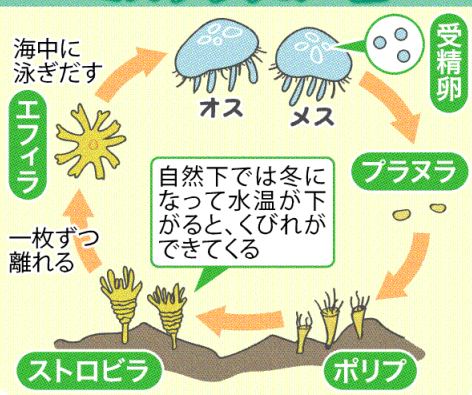
採集に行くと
いない



せっかく育ち始めたクラゲの
赤ちゃんがすべて順調に
成長するわけではない

※イラストはかごしま水族館提供

ミズクラゲの一生



クラゲ類の多くは、クラゲの姿で
いられるのは数カ月ほどで、子孫を残
しながらその一生を終えます。鹿児島
でも季節ごとにさまざまなクラゲが
出現しますが、それらを採集しても
展示できる期間はわずか。1年を通し



クラゲ 通年展示は苦勞の連続

て展示し続けるため、かごしま水族館
を含め全国の水族館は、繁殖・増殖
に取り組んでいます。

ミズクラゲは鹿児島県本土では主に
春に出現し、初夏には姿を消してしま
います。そのライフサイクルは古くか
ら解明されています。「ポリプ」に多
数のくびれができて「ストロビラ」に
なる過程を「ストロビレーション」と
いいます。さらに分離して「エフィラ」
として海中に泳ぎ出し、傘が500円
玉サイズになるまで成長させるには1
カ月半ほどかかります。これを、展示
中のクラゲの維持管理と並行してやり
ます。しかし、クラゲを増やすテクニ
ックを持っていても、さまざまな困難
に見舞われることもあります。

当館には8基のクラゲ水槽があり、
一つでも空にするわけにはいきませ
ん。本館にピンチとなったら他の水族
館に協力要請し、クラゲを譲ってもら
います。クラゲ飼育担当者の悩みはど
こも同じで、展示を支えています。

(海獣展示係飼育員・土田洋之)